

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 2 月実績 速報版(パネル 270)

1 月実績 確報版(パネル 270)

(2017 年 3 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年3月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年2月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	81,006,408	100.0%	99.2%	97.5%
食品合計	72,910,472	90.0%	99.5%	97.6%
生鮮3部門合計	27,904,501	34.4%	99.4%	97.5%
青果	11,473,851	14.2%	102.6%	100.6%
水産	7,145,458	8.8%	95.9%	94.2%
畜産	9,285,193	11.5%	98.3%	96.5%
惣菜	8,203,682	10.1%	100.1%	97.9%
日配	15,425,194	19.0%	99.1%	97.2%
一般食品	21,377,095	26.4%	99.6%	97.9%
非食品	5,802,386	7.2%	97.7%	97.5%
その他	2,293,602	2.8%	93.0%	93.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	11,035,252	43	98.4%	97.4%
関東地方	29,728,062	73	98.8%	97.9%
中部地方	10,020,457	53	101.4%	97.0%
近畿地方	18,143,958	44	99.6%	98.2%
中国・四国地方	8,038,087	34	100.0%	95.5%
九州・沖縄地方	4,040,593	23	96.4%	96.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	688,697	47	95.1%	95.1%
4～10店舗	3,365,826	68	95.5%	95.4%
11～25店舗	9,448,995	66	98.1%	97.8%
26～50店舗	15,212,724	46	99.2%	96.7%
51店舗以上	52,290,166	43	99.6%	97.8%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	78,359,552
総店舗数（店舗）	7,745	店舗平均月商（万円）	10,459
総売場面積（㎡）	12,769,122	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.3

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年3月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年1月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	85,964,097	100.0%	101.9%	100.1%
食品合計	76,979,255	89.5%	102.4%	100.5%
生鮮3部門合計	30,105,017	35.0%	102.9%	100.9%
青果	11,926,271	13.9%	106.8%	104.8%
水産	7,928,075	9.2%	98.9%	97.1%
畜産	10,250,671	11.9%	101.8%	99.7%
惣菜	8,538,549	9.9%	103.2%	101.0%
日配	16,437,015	19.1%	101.8%	99.9%
一般食品	21,898,673	25.5%	101.7%	100.1%
非食品	6,493,128	7.6%	98.4%	98.4%
その他	2,491,762	2.9%	95.4%	95.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,680,453	43	101.3%	99.9%
関東地方	31,399,702	73	102.1%	100.9%
中部地方	10,462,812	53	103.2%	98.8%
近畿地方	19,455,272	44	101.3%	100.2%
中国・四国地方	8,569,719	34	103.4%	98.8%
九州・沖縄地方	4,396,138	23	99.7%	100.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	719,430	47	97.3%	97.3%
4～10店舗	3,509,805	68	100.1%	98.9%
11～25店舗	9,913,744	66	100.0%	100.2%
26～50店舗	15,589,375	46	101.1%	99.1%
51店舗以上	56,231,743	43	102.5%	100.5%

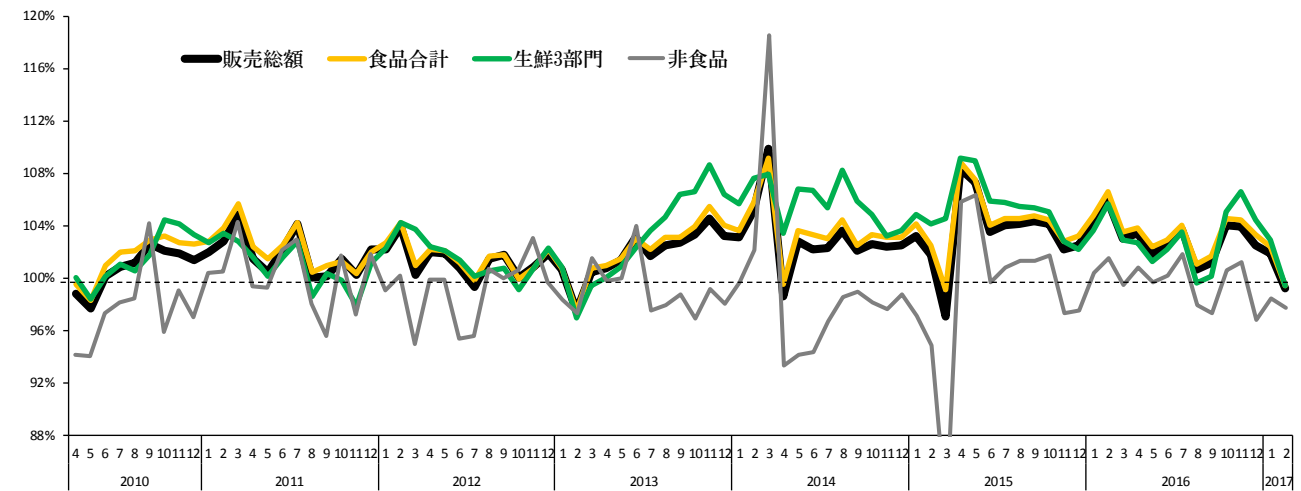
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	83,513,313
総店舗数 (店舗)	7,750	店舗平均月商 (万円)	11,092
総売場面積 (㎡)	12,764,218	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

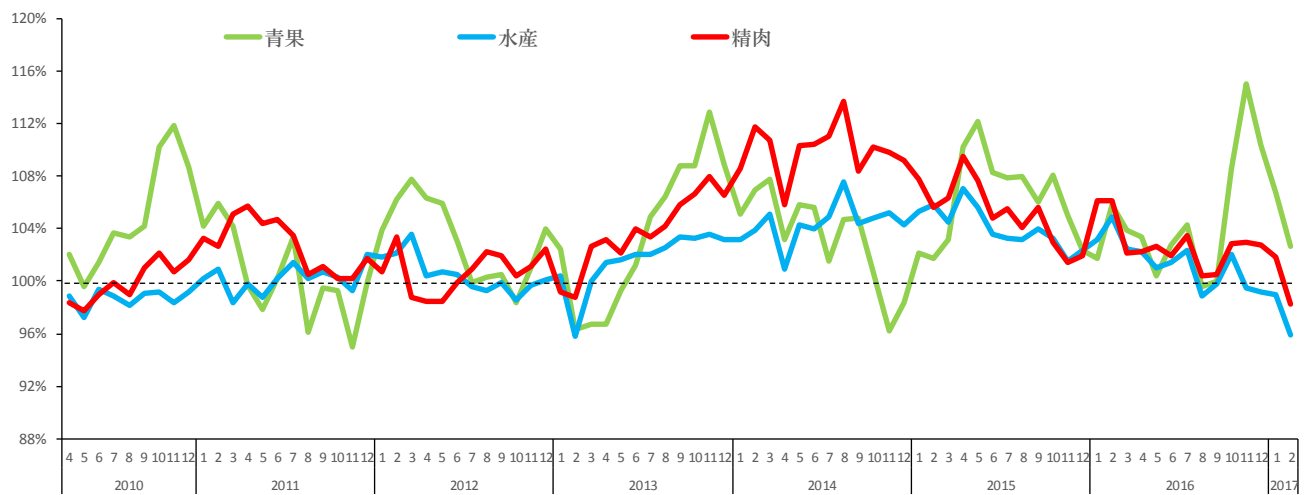
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2017年2月(前年同月比／全店ベース)

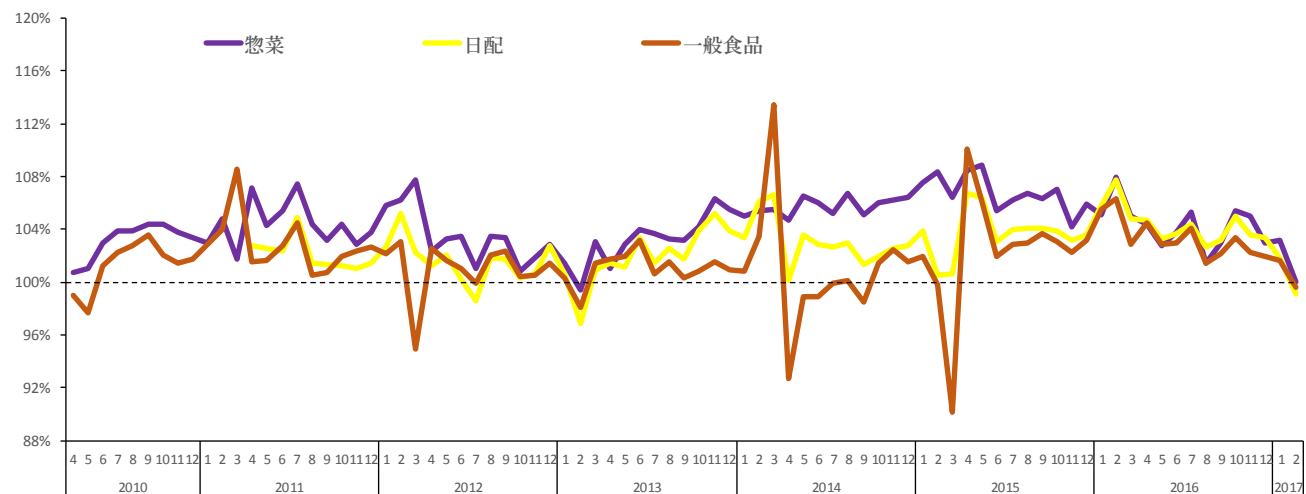
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年1月までは確報版による前年同月比、2017年2月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2017年2月エリア別気候状況

1. 月の気温：北・東日本で高く、西日本、沖縄・奄美で平年並だった

上旬：北・東日本と沖縄・奄美は高く、西日本では平年並だった。

中旬：北日本でかなり高かった。東・西日本、沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：全国的に平年並だった。

2016年2月との比較：中旬前年気温が高かった影響でかなり低い気温となった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2017年2月			2016年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.9	2.6	-0.1	0.5	3.0	-1.5	0.4	-0.4	1.4
東北地方	1.1	1.5	-0.1	0.2	2.6	0.4	0.9	-1.1	-0.5
関東甲信地方	0.8	0.8	1.0	0.1	2.9	1.2	0.7	-2.1	-0.2
北陸地方	0.9	0.5	-0.1	0.1	2.7	0.5	0.8	-2.2	-0.6
東海地方	0.3	0.0	0.5	0.3	2.0	0.9	0.0	-2.0	-0.4
近畿地方	0.4	-0.2	0.2	0.6	2.5	0.5	-0.2	-2.7	-0.3
中国地方	0.8	0.0	0.1	0.4	2.0	-0.2	0.4	-2.0	0.3
四国地方	0.7	0.1	0.3	0.6	1.9	-0.1	0.1	-1.8	0.4
九州北部	0.7	0.3	-0.1	-0.2	1.5	-0.8	0.9	-1.2	0.7
九州南部・奄美地方	0.4	-0.3	-0.6	-0.4	1.1	-1.0	0.8	-1.4	0.4

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：西日本太平洋側でかなり多かった

上旬：北日本、東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。東日本太平洋側と西日本は平年並だった。

中旬：北・東日本日本海側でかなり多かった。一方、東・西日本太平洋側では少なかった。

下旬：北・東・西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。北・東・西日本日本海側は平年並だった。

2016年2月との比較：中旬西日本を中心にやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年2月			2016年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	94	64	97	99	71	90	-5	-7	7
東北地方	68	92	109	113	104	102	-45	-12	7
関東甲信地方	109	131	113	108	99	113	1	32	0
北陸地方	81	100	103	130	117	96	-49	-17	7
東海地方	98	119	118	114	97	121	-16	22	-3
近畿地方	77	102	121	130	123	119	-53	-21	2
中国地方	109	122	110	127	108	97	-18	14	13
四国地方	98	118	125	122	93	114	-24	25	11
九州北部	99	144	112	120	60	117	-21	84	-5
九州南部・奄美地方	116	161	113	119	82	106	-3	79	7

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 月の降水量：上旬後半から中旬前半にかけて西日本日本海側で大雪となった

上旬：西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美はかなり少なく、北日本日本海側は少なかった。

中旬：東日本日本海側で多かった。一方、西日本太平洋側では少なかった。

下旬：、北日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美では多かった。

2016年2月との比較：上旬はかなり多く、中旬はかなり少なく、下旬は西日本で多くなった。

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年2月			2016年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	59	100	87	110	194	226	-51	-94	-139
東北地方	141	110	58	36	149	89	105	-39	-31
関東甲信地方	70	37	44	16	211	24	54	-174	20
北陸地方	91	162	85	89	166	127	2	-4	-42
東海地方	106	39	97	11	277	18	95	-238	79
近畿地方	150	82	57	27	330	21	123	-248	36
中国地方	177	130	81	56	227	46	121	-97	35
四国地方	130	33	69	1	305	9	129	-272	60
九州北部	168	51	94	17	242	44	151	-191	50
九州南部・奄美地方	91	34	84	43	212	63	48	-178	21

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「2月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017 年 3 月調査結果（2 月実績）
（2017 年 3 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの 5 段階で評価
- ・前年同月を 100 とした当月の値を調査 ※2014 年 4 月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの 5 段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ・2～3 ヶ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで 5 段階で評価
 - ・今後 2～3 ヶ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの 5 段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

3月調査（2月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断、見通し判断共に2か月連続で悪化

2月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.3の43.7、見通し判断も前月から-1.3の42.0となり、2か月連続の悪化となった。

経営動向調査では、前年がうるう年のため営業日が一日少なく、売上高DIが-16.1、収益DIは-13.1と共に二桁のマイナスとなった。同様に来客数DIは-18.1と大きく下落した。高騰が続いていた生鮮品仕入原価DIは、4.7（前月比-5.4）と徐々に落ち着きをみせはじめているほか、食品仕入原価DIが、0.2（前月比-2.2）となったことで、販売価格DIは-1.2（前月比-4.6）とマイナスを記録した。

カテゴリー動向調査は、引き続き相場が安定化したものの、販売数量が伸びた青果DIが6.5と唯一プラスを記録したものの、他のDIは総じて大きくマイナスとなった。特に不漁による品不足や相場高が続く水産DIは、-23.9まで低下している。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべてのDIが前月に比べ悪化しているものの、下げ幅は小幅なものにとどまった。年明けからの動きにより長期傾向は、改善の勢いを失いつつあり、今後の動向に注意が必要となる。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

総じて景況感の動きが小さいことをふまえると、うるう年の影響はあったものの、業況自体は前月から大きく悪化していないとみられる。しかし、来客数DIのマイナスを客単価DIのプラスでカバーする厳しい環境が続いていることに変化はない。生鮮品では、相場が安定化しつつあるなか、今後の客単価維持に向けて、販売価格を下げ、買い上げ点数増加を図るか、付加価値訴求により単価上昇を図るか、舵を切る方向に違いがみられた月となった。販売価格DIがマイナスを記録したなかで、客単価DIがどれだけプラスを維持できるか、次月以降の動向を注視したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 43.7 (-0.3) 前月： 44.0	消費者購買意欲DI 当月： 43.7 (-0.9) 前月： 44.6	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.0 (-0.1) 前月： 41.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 46.2 (-0.3) 前月： 46.5
---	--	--	--

見通し判断

景気判断DI 当月： 42.0 (-1.3) 前月： 43.3	消費者購買意欲DI 当月： 43.9 (-0.1) 前月： 44.0	周辺地域 競合状況DI 当月： 39.6 (-1.3) 前月： 40.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.2 (-0.7) 前月： 45.9
---	--	--	--

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-16.1 (-9.1) 前月：-7.0	客単価DI 当月：2.5 (-2.5) 前月：5.0	来客数DI 当月：-18.1 (-5.0) 前月：-13.1	
収益DI 当月：-13.1 (-5.1) 前月：-8.0	販売価格DI 当月：-1.2 (-4.6) 前月：3.4	生鮮品仕入原価DI 当月：4.7 (-5.4) 前月：10.1	食品仕入原価DI 当月：0.2 (-2.2) 前月：2.4

カテゴリー動向

青果DI 当月： 6.5 (-10.6) 前月：17.1	水産DI 当月： -23.9 (-6.2) 前月：-17.7	畜産DI 当月： -16.5 (-8.9) 前月：-7.6	
惣菜DI 当月： -6.5 (-7.4) 前月：0.9	日配DI 当月： -14.1 (-9.6) 前月：-4.5	一般食品DI 当月： -11.6 (-2.6) 前月：-9.0	非食品DI 当月： -16.0 (-4.0) 前月：-12.0

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

3月調査（2月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

うるう年の影響も加わり大きく下落

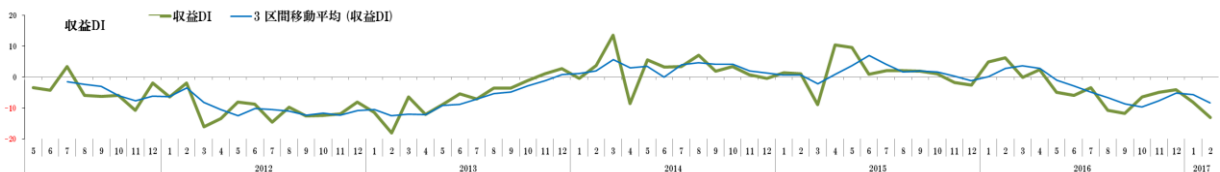
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	8.0	33.3	37.3	21.4	0.0	-7.0
売上高（当月）	14.7	46.0	28.2	11.0	0.0	-16.1



2. 収益DI

うるう年の影響も加わり大きく下落

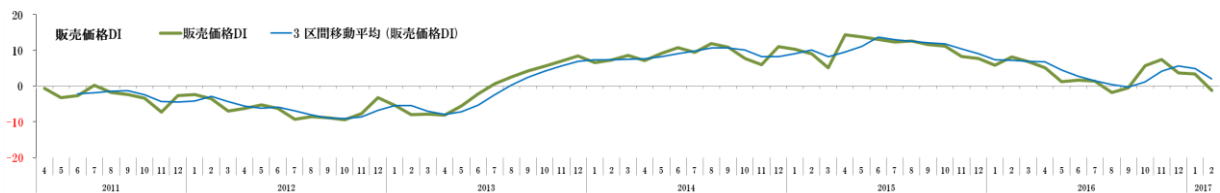
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	7.5	35.7	39.2	16.6	1.0	-8.0
収益（当月）	10.5	43.2	35.2	10.5	0.6	-13.1



3. 販売価格DI

2016年9月以来のマイナスを記録

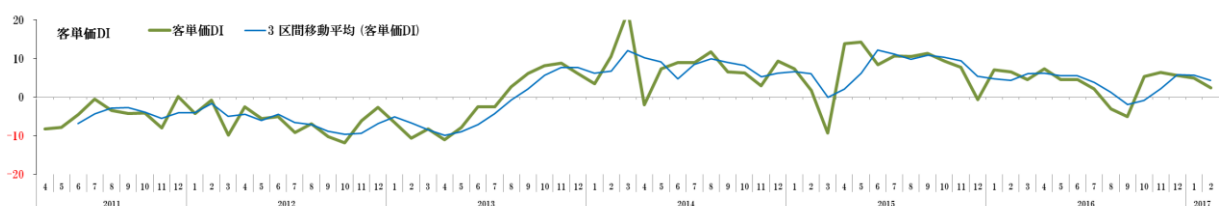
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	8.5	70.0	21.0	0.5	3.4
販売価格（当月）	1.8	18.4	63.2	16.0	0.6	-1.2



4. 客単価DI

5ヵ月連続でプラス圏を維持するも、頭の重い状況が続く

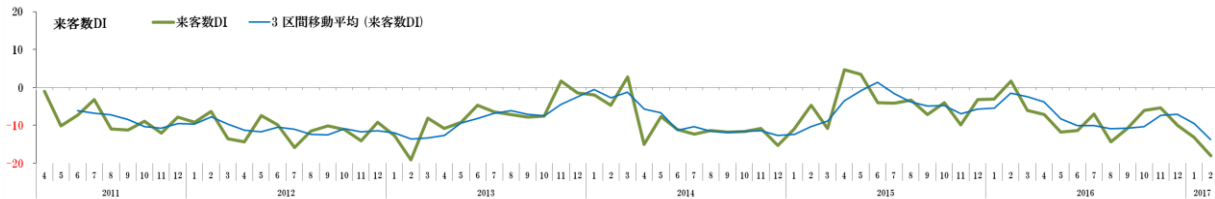
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	16.4	47.3	36.3	0.0	5.0
客単価（当月）	1.8	19.0	46.6	32.5	0.0	2.5



5. 来客数 DI

うるう年の影響も加わり 3 ヶ月連続の二桁マイナスを記録

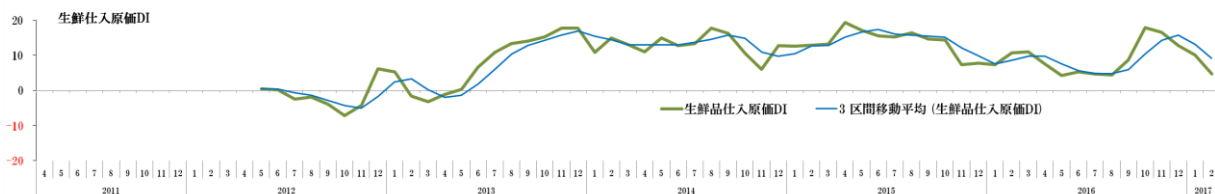
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.5	46.0	35.0	10.5	0.0	-13.1
来客数 (当月)	13.0	50.6	32.1	4.3	0.0	-18.1



6. 生鮮仕入原価 DI

4 ヶ月連続で下落し、プラス幅を徐々に縮小

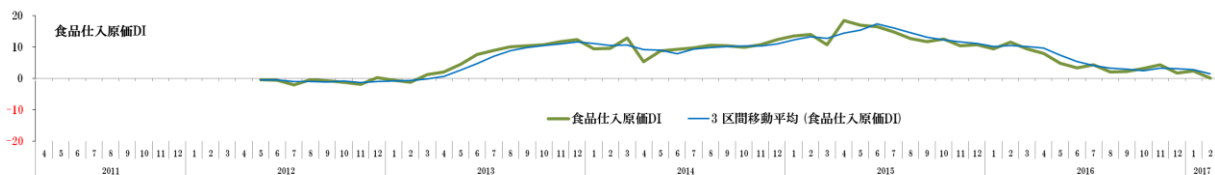
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.1	7.7	41.5	45.1	3.6	10.1
生鮮仕入原価 (当月)	3.1	9.9	54.0	31.1	1.9	4.7



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラスを維持するも、低下傾向

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.5	8.1	67.2	21.7	0.5	2.4
食品仕入原価 (当月)	4.3	7.4	72.2	15.4	0.6	0.2

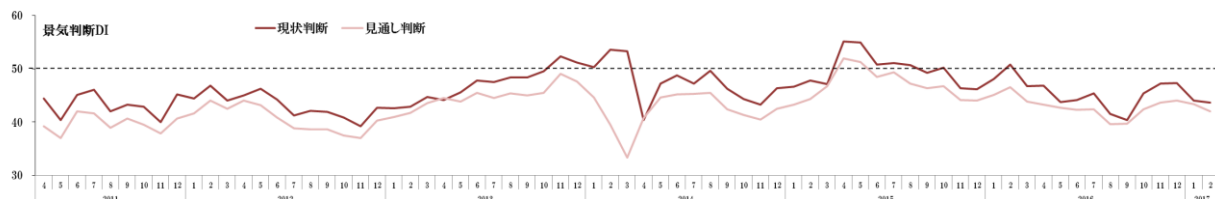


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断はほぼ横ばいも、見通し判断はやや悪化

回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	0.0	29.6	65.0	5.4	0.0	44.0
【現状】景気判断（当月）	0.6	30.1	63.3	6.0	0.0	43.7
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	0.5	30.5	64.0	4.9	0.0	43.3
【見通し】景気判断（当月）	2.4	31.5	61.8	4.2	0.0	42.0



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に悪化も、見通し判断はほぼ横ばい

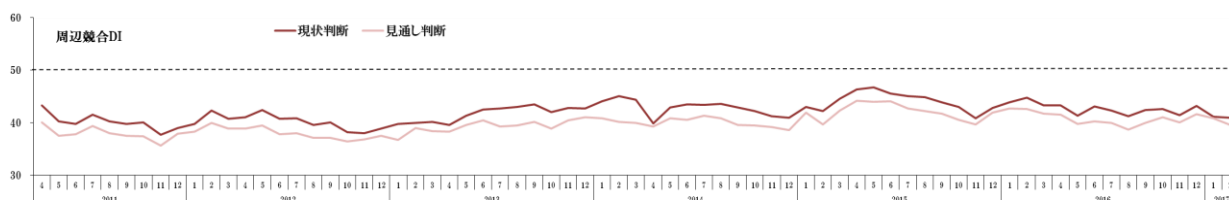
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	26.6	68.5	4.9	0.0	44.6
【現状】購買意欲（当月）	0.6	28.3	66.9	4.2	0.0	43.7
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.0	27.1	70.0	3.0	0.0	44.0
【見通し】購買意欲（当月）	1.2	25.5	69.7	3.6	0.0	43.9



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に弱含みで改善の兆しがみえず

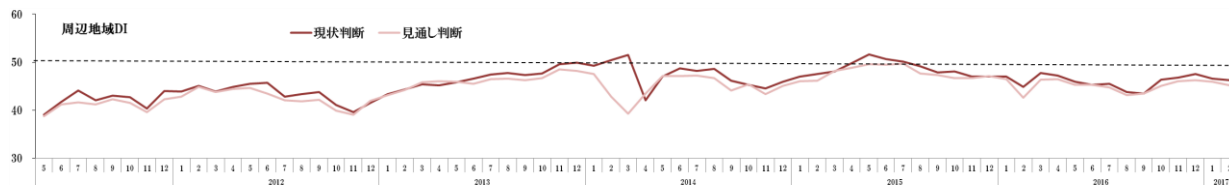
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.9	30.0	63.5	2.5	0.0	41.1
【現状】競合状況（当月）	3.6	30.1	65.1	1.2	0.0	41.0
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	4.4	29.6	64.0	2.0	0.0	40.9
【見通し】競合状況（当月）	4.2	34.3	60.2	1.2	0.0	39.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

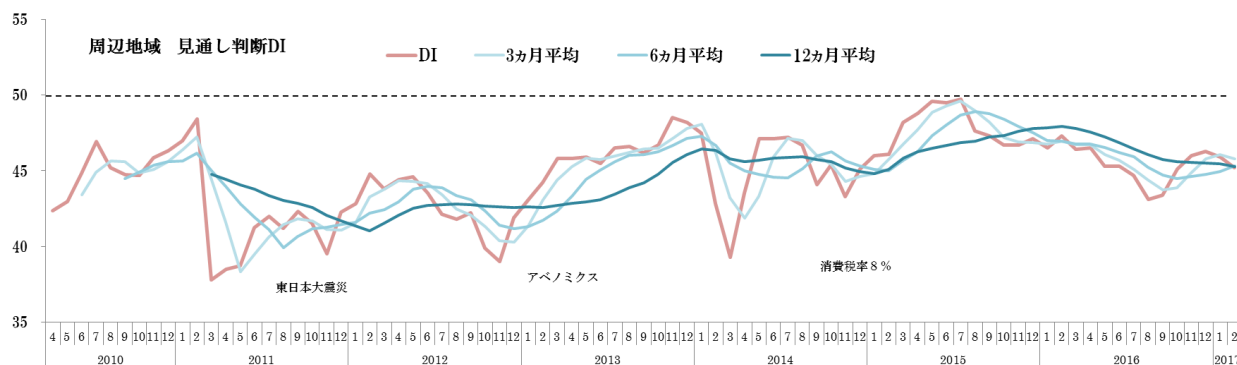
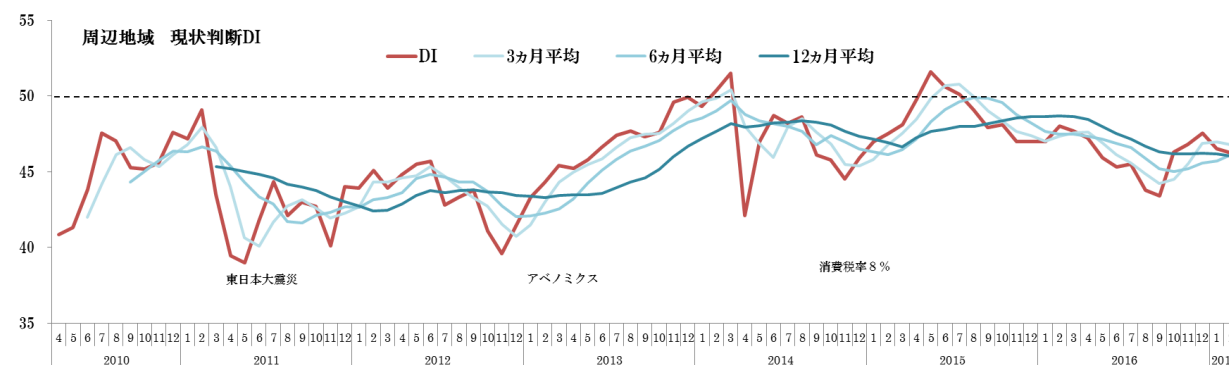
現状判断、見通し判断共に小幅ながら悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	16.4	81.1	2.5	0.0	46.5
【現状】地域景気 (当月)	0.0	16.9	81.3	1.8	0.0	46.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	17.9	79.1	2.5	0.0	45.9
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	19.9	77.7	1.8	0.0	45.2



長期傾向 (2010年4月～)

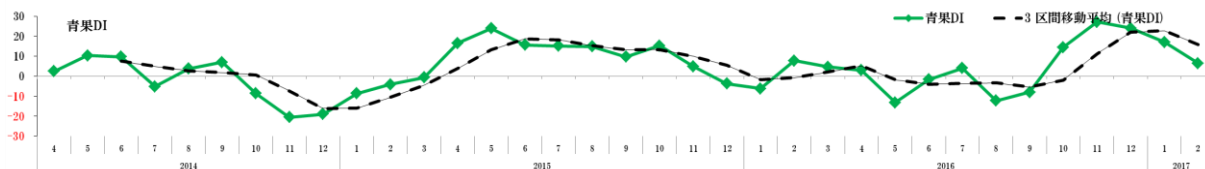
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り悪化が続き、3ヵ月、12ヵ月移動平均はマイナスでの推移となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：6.5（やや好調）

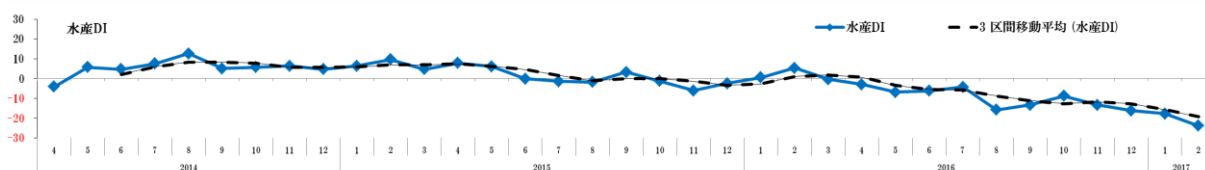
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	0.5	12.0	22.4	49.0	16.1	17.1
青果（当月）	5.2	18.1	33.5	32.3	11.0	6.5



野菜相場が安定、入荷数量が増加したことで、単価は下落したものの、販売数量が伸びた店舗では好調となった。なかでもトマト・レタス・キュウリなどのサラダ関連が好調、一部では、前年より低めに推移した気温により鍋物需要の高まりがみられ、葉物類やきのこ類などの動きがよかった。果物では、中旬以降相場が下がっているいちごや柑橘類が好調にあげられる一方で、りんごやバナナなどは不調。簡便化志向を背景にカット野菜やカットフルーツは、引き続き好調となった。

2. 水産DI：-23.9（かなり不調）

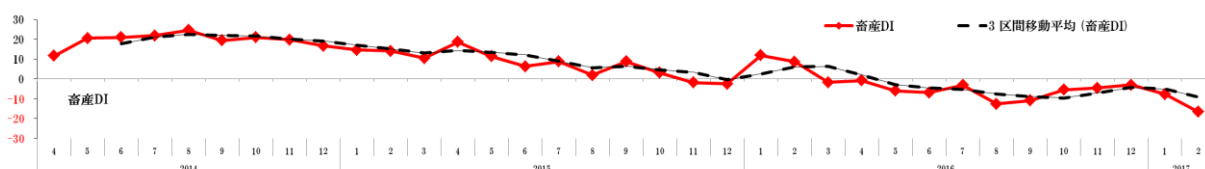
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	14.1	50.0	28.6	7.3	0.0	-17.7
水産（当月）	24.5	50.3	21.3	3.9	0.0	-23.9



引き続き不漁により生魚の入荷が少なく、相場も高値で推移したことから不調となった。生食用カキやいか類は、入荷減の影響で落ち込みが厳しい。養殖のぶりやかれい、うなぎなどの売り込みを行っている店舗もみられるが、販売すべき商材が見つからないとのコメントも多くみられた。

3. 畜産DI：-16.5（かなり不調）

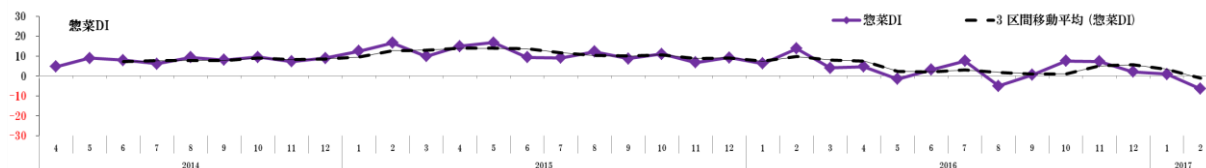
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.2	39.5	39.5	16.3	0.5	-7.6
畜産（当月）	13.5	50.0	26.9	8.3	1.3	-16.5



牛肉は相場高が続いており、輸入牛の売り込みを強化している店舗が多くみられる。一方で、国産牛に回復傾向を指摘するコメントもみられ、販売戦略が二極化している。豚肉については低価格で値ごろ感を打ち出しており、点数増加の有無により好不調が分かれている。鳥インフルエンザの発生により鶏肉に影響が受け、伸び悩んでいる。加工肉は不調とするコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：-6.5（やや不調）

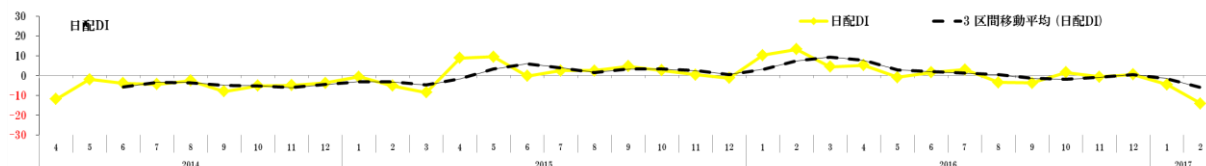
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.1	27.7	38.7	27.2	4.2	0.9
惣菜（当月）	9.1	31.2	38.3	19.5	1.9	-6.5



うるう年の影響を受けたものの、恵方巻きは年々売上を伸ばしており、好調となっている。一部に予約の受け取りが少なく、廃棄ロスを指摘するコメントもみられた。天候に恵まれ行楽需要の高まりによりから揚げやチキンなどが好調になった。サラダ類は、青果相場下落により売上を落としている。旬の食材を使ったメニューなど取り組み強化を続ける店舗が多くみられる。

5. 日配DI：-14.1（不調）

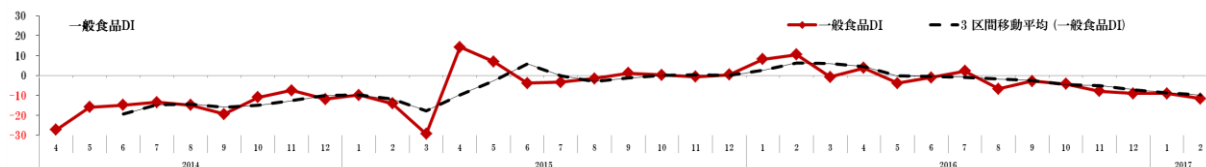
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.6	34.4	41.3	21.7	0.0	-4.5
日配（当月）	12.8	40.4	37.2	9.6	0.0	-14.1



インフルエンザ対策で前年好調だった機能性ヨーグルトは流行時期のずれにより落ち込みをみせた地域もみられた。メディアで取り上げられた甘酒や豆乳や牛乳などが引き続き好調。パン類は引き続き不調となった。一部鍋物需要が高まった地域では、練り物などに動きがみられた。他業態との価格競争の厳しさを指摘するコメントも散見されている。

6. 一般食品：-11.6（不調）

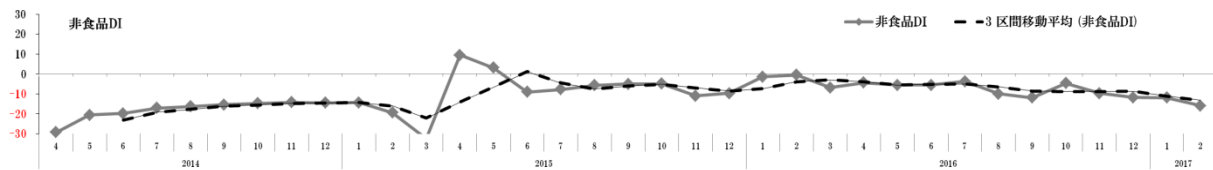
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.7	42.4	37.7	14.7	0.5	-9.0
一般食品（当月）	8.9	42.7	34.4	14.0	0.0	-11.6



もち麦やトマト、さばの水煮などメディアで取り上げられた商品の売上が大きく伸び、単価上昇を追い風に米類が好調となった。節分やバレンタイン関連も比較的好調とする店舗が多い。一方で、価格競争が厳しく、単価が低下しても数量が伸びない状況となっているとの指摘も多い。

7. 非食品 DI：-16.0（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.7	41.4	37.1	10.8	1.1	-12.0
非食品（当月）	13.8	44.7	34.2	5.9	1.3	-16.0



前年より気温が低い影響で一部季節商品に動きもみられたが、タバコの売上が落ち込んでいるほか、ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が激しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2017 年 3 月調査（2 月実績）キーワード TOP3

1. うるう年の反動
2. 青果相場安定
3. 価格競争激化

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

2 月実績速報版 166 社
 1 月実績確報版 203 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp